

『機巧館のかぞえ唄』講釈

2012年4月21日

1 著者紹介・作品紹介

はやみねかおる；1964年、三重県に生まれる。三重大学教育学部を卒業後、小学校の教師となり、クラスの本ぎらいの子どもたちを夢中にさせる本を探すうちに、みずから書きはじめる。『怪盗道化師』で第30回講談社児童文学新人賞に入選。〈名探偵夢水清志郎事件ノート〉〈怪盗クイーン〉〈YA! ENTERTAINMENT「都会のトム&ソーヤ」〉〈少年名探偵 虹北恭助の冒険〉などのシリーズのほか、『バイバイ スクール』『ぼくと未来屋の夏』『復活!! 虹北学園文芸部』『帰天城の謎 TRICK 青春版』（以上全て講談社）などの作品がある。【講談社青い鳥文庫『怪盗クイーン、かぐや姫は夢を見る』著者紹介より抜粋】

【シリーズ別作品紹介】

- ・〈名探偵夢水清志郎事件ノート〉シリーズ
『そして五人がいなくなる』『亡霊は夜歩く』『消える総生島』『魔女の隠れ里』『踊る夜光怪人』
『機巧館のかぞえ唄』『ギヤマン壺の謎』『徳利長屋の怪』『人形は笑わない』
『「ミステリーの館」へようこそ』『あやかし修学旅行～鶴のなく夜～』『笛吹き男とサクセス塾の秘密』
『ハワイ幽霊城の謎』『卒業～開かずの教室を開けるとき～』
- ・〈名探偵夢水清志郎の事件簿〉シリーズ
『名探偵 vs 怪人幻影師』
- ・〈怪盗クイーン〉シリーズ
- ・〈虹北商店街〉シリーズ
- ・〈都会のトム&ソーヤ〉シリーズ
- ・それ以外、ノンシリーズなど

2 『機巧館のかぞえ唄』構造説明

I部；『怪談』

II部；『夢の中の失楽』

III部；『さよなら天使』

以下I・III部について簡単に……簡単に？説明。

【I部 『怪談』】

「登場人物の説明」兼「教授の『名探偵としての才能』証明」的なパート

*岩崎美衣『呪いの机』

- ・睡眠は大切ですね

*水野和尚『二人身の丘の怪物』

- ・『天の矢』的な発想はどうか？

*岩崎亜衣『夢の中の階段の怪談』

- ・レム睡眠；身体は眠っているのに脳は活動している状態。夢はこの状態で見える。
- ・ノンレム睡眠；それ以外のときはこれ。

*夢水清志郎『ゆめかまことか（仮）』

- ・II部への橋渡しのなはたらきか。

【Ⅲ部 『さよなら天使』】

“探偵”と“名探偵”の違い。

→「探偵と名探偵は、どう違うんですか？」

「探偵は、ただ単に事件を解決する仕事。名探偵は、みんながしあわせになるように事件を解決する仕事だよ。」（『名探偵 vs 怪人幻影師』）

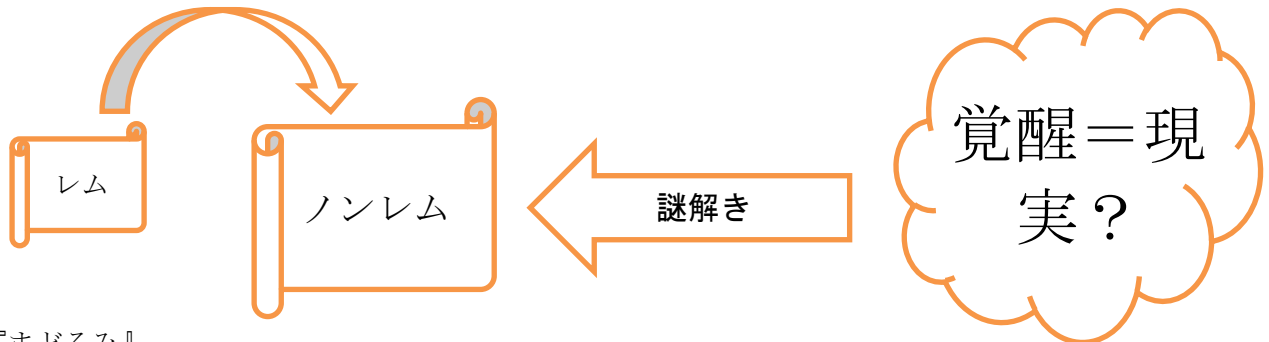
- ・「教授から教えてもらったことは、推理のしかただけじゃないわ。（中略）**名探偵は、謎を解くだけが仕事じゃない。みんなが笑顔になれるように解決をしなくちゃいけない**ってことも」（『踊る夜光怪人』）

（あと、上越警部。すごいいい人じゃんか）

では、問題のⅡ部について……。

【Ⅱ部 『夢の中の失楽』】

『まどろみ』→『第一の夢 レム睡眠』→『第二の夢 ノンレム睡眠』→『第三の夢 覚醒』
（頑張って図とか描いてみたけど、わけわかんないからホワイトボードで説明するよ！）



* 『まどろみ』

→今は割愛。3で……。

* 『第一の夢 レム睡眠』

- ・『神隠島事件』について。
- ・鮭紙賞……？
- ・平井消失のトリックを「無理だろ www」と思う人→古畑任三郎「vs クイズ王」を見よう！

* 『第二の夢 ノンレム睡眠』

- ・落ち葉を踏む時は気をつけよう。だけど毬夫も痛いんじゃない？
- ・出された食事が日本食→「ぼくは予想していたよ。」……？
- ・平井虎次郎といふ男→3で。

* 『第三の夢 覚醒』

→これが現実？しかし題名は『第三の“夢”』……。ならば“覚醒”したのは何なのか？

3 平井龍太郎の“2つめの罪”とは……？

平井龍太郎の処女作『通信士』→『つう・しん・し』→『Two・Sin・See』→『二つ・罪・見える』
『発憤と富』→『はっぶん・と・とみ』→『Happen・To・Me』→『私に降りかかる』

〈例題〉以下の英文を和訳せよ。（配点 5点）

Two sin see happen to me.

1つめ(?)の罪；部隊に出された撤退命令を伝えずに、自らその部隊を全滅させたこと。

では“もう1つの罪”とは……？

～手がかり～

- ・時系列的に考えて『通信士』執筆以前の事柄となるべきである。
- ・夢水清志郎はそれについて言及する際に、玄関ホールへと目をやった。
- ・玄関ホールにあるのは人骨模型だけである。
- ・平井龍太郎が“現実の世界”で犯した罪である。
- ・その罪は夢水清志郎をして「完全犯罪」と言わしめている。
- ・夢水清志郎は謎を解き明かすことを恐れている。
- ・最終的に夢水清志郎は“もう1つの罪”については何も語らなかった。
- ・『まどろみ』において台詞の一致が見られる。(ページ数は青い鳥文庫のもの)
 - 夢水？ 「……ぼくが招待されたのは、機巧館ですか？あなたの夢の中ですか？」(p58 と p195)
 - 平井？ 「……あなたは『夢の中の失楽』におびえている。どうです？」(p58 と p185)
 - 「……いま、この世界が現実かどうかなんて、どんな意味があるんです？」(p58 と p195)
 - 「この世界が現実か夢の中かわからないのは、あなただけではありませんよ。」(p59 と p196)
 - 「……わたしにだって、わからないんです！」(p59 と p196)

→真相は重複されていない台詞に……？

4 おはりにかへて

・「そう、時代は21世紀をむかえようとしている。この時代に、怪人や怪盗があらわれると思うかい？」
(『踊る夜光怪人』)

・「怪盗—そのレトロなことばに、あなたは、どんなイメージをいだくだろう？現代社会の名のもとに魔法も伝説も封じ込められてしまった、この情報社会。おのれの美学を満足させるために獲物を盗みだす怪盗など、絶滅してしまったのではないか？すでに『怪盗』ということばは古語辞典にのせられているのではないか？—いや怪盗は生きている。**夜の間に浪漫を感じ、赤い夢の中で生きている子どもがいるかぎり、怪盗や名探偵がいなくなることはない**」(『怪盗クイーンと魔窟王の対決』)